

# ヨハネ・ノート

第5号

札幌コダーイ合唱団

2005.02.10 発行

(練習スケジュールにあわせて掲載しているの、この先、曲順と一致しないことがあります)

## [NBA21e-g] (BWV37-39)

ピラトとユダヤ人たちのやり取りはまだ続きます。「十字架につける」という激昂した群衆の声に対し、ピラトは「わたしはこの男に罪を見出せない」と取り合いません。すかさず群衆は「わ

れらの律法によれば、神の子と自称したこの男は死罪に値する」と自分たちの主張をいいつのりませぬ。「死罪」という言葉はまたしても十字架の音型をなしています。



Wir ha-ben ein Ge-setz, und nach dem Ge-setz soll er- ster

それまでと違って低音部以外のオーケストラは、合唱の上三声をそのままユニゾンでなぞっています。バッハはこの手法で、自分たちの律法をなんとしてもピラトに認めさせようという、群衆の強い意志を表したかったのでしょうか。このナンバーの最後はまたしてもフリギア終止をとり、群衆がピラトに対して突き放すように言葉を投

げかけているような印象を与えます。

ピラトはこの言葉を聞いてますます恐れ、官邸に戻ってイエスにたずねます。「お前はどこからきたのか」。ピラトのレチタティーヴォには、群衆の態度と、得体の知れないイエスに対する恐れがよく描かれています。ピラトはイエスを釈放しようと心に決めます。

## [NBA22] (BWV40) コラール「あなたが囚われたおかげで、神の子よ」

F. スメントによれば、このコラールはヨハネ受難曲の中心をなしています。つまりこの曲を軸に、前後の曲をシンメトリックに配置するという、いかにもバッハらしい構築性が見て取れるのです。

旋律は既存のものですが、歌詞はバッハが所有していたコラール曲集にはないことから、バッハ自作のものなのでは、と考えられています。

[Knechtschaft] (囚われの身) の言葉が置かれている最後の2小節では、バス声部は受難を表す半音階上行で進行しています。



müßt uns - re Knecht-schaft e - wig sein.

## [NBA23a-b] (BWV41-42) 「もし、この男を釈放するなら、あなたは皇帝の友ではない」

挿入されたコラールが終わると、ふたたびピラトと群衆の対峙の場面に戻ります。ピラトの煮え

切らない態度に業を煮やした群衆は叫びます。「あなたは皇帝の友ではない」と。



Läs-sest du die - sen los, so bist du des Kei- sers\_ Freund \_\_\_\_\_ , des Kei-sers

楽譜を見れば、この曲が[NBA21f]を半音下げた旋律に変化を加えたものであることがわかります。(ここでスメントの説が実証されています。)

群衆のこの言葉で、ローマ皇帝の配下であるピ

ラトは窮地に追い込まれます。困り果てたピラトはイエスを外に連れ出し、裁判の座に着かせてユダヤ人たちにいいます。「見よ、あなたたちの王だ」。するとユダヤ人たちは叫び返します。

## [NBA23d] (BWV44) 「殺せ、殺せ、十字架につける！」

[weg] (殺せ) の言葉はせわしなく上下しつつ、何度も現れては、興奮した群衆の様子を描いています。子音を立てて、叫ぶように歌います。

この言葉に続いて、[NBA21d]と同じ[Kreuzige] (十字架につける) が、ふたたび登場します。バッハがシンメトリックな構造を考えついたのは、

おそらく「十字架につける」という群衆の言葉が2回現れることに着目したからなのでしょう。



Weg, weg mit dem, weg, weg,